

令和3年6月23日

宮津市議会議長 徳本 良孝 様

総務文教委員会
委員長 小 濃 孝 之

総務文教委員会 所管事務調査中間報告書

本委員会は去る令和2年9月11日の委員会において、所管事務調査のテーマを「持続可能な地域公共交通について」と決定した。

この間、テーマについて調査研究を行ってきたが、公共交通空白地であった日置世屋線の有償運送が本年4月からスタートするなど、運営期間が短い地域があること、また、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令、延長により、予定していた市内の有償運送運営協議会等との懇談などができなかったことから、同一テーマの調査を継続せざるを得ないと判断し、次年度も引き続き調査研究を行うものとする。

なお、これまでの調査概要について、次のとおり中間報告を行う。

1 調査日

令和2年	9月11日	所管事務調査事項の議決
	9月23日	執行部（企画財政部）との意見交換
12月22日		調査研究
令和3年	3月11日	調査研究
	4月23日	福知山市へ先進地視察調査
	5月14日	調査研究
	6月 8日	調査研究
	6月16日	所管事務調査中間報告書の議決

2 調査内容

丹後海陸交通の運転手不足により、バス路線のうち枝線6路線の運行ができなくなった。そのため、上宮津地区と橋北地区については令和2年4月から、由良地区については10月から、各地区で地域の公共交通を運営する協議会を立ち上げ、公共交通空白地有償運送を行っている。

スタートから半年ないしは1年余りであり、手探り状態のところもある中で、今後とも、市民の足として安定的に継続して運行されなければならない。

については、持続可能な運行をしていくために、こういった課題があり、それをどのように解決していくのかについて調査研究することとした。

(1) 執行部（企画財政部）との意見交換

執行部より公共交通空白地有償運送を行っている上宮津・橋北・由良地区の概要について説明を受け、その後、意見交換を行い、運転手確保の必要性や利用者を増やすための方策等についての意見が出された。

(2) 福知山市へ先進地視察調査

三和地域協議会が運営する公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」の取組について説明を受け、事業を運営する上での課題等を聴取し、意見交換を行った。（別紙参照）

3 今後の取組

新型コロナウイルス感染症の影響等により、予定していた調査が完了しなかったことから、市内の有償運送運営協議会等との懇談において、運行の現状や持続的な運営等について意見交換を行う中で、課題等の検証を行うため、次年度も同一テーマでの調査を継続することとする。

先進地視察報告

「みわひまわりライド」の取組

◆ 経緯

- ・市バスの利用者数が減少し、減便・区間短縮がされる中で、三和地域協議会の中の自治会長・民生委員・老人クラブ役員・社協職員などにより構成する「生活基盤部会」において、三和地域の公共交通のあり方を協議してきた。
- ・三和地域の中心部に生活していくための施設機能（スーパー、金融機関、歯科医院など）があり、そこへのアクセスが確保できれば日常生活はできると考え、平成29年10月から三和地域協議会が事業主体となり、公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」の運行がスタートした。

◆ 内容

- ・運行日・運行時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時
- ・運行形態：運行日2日前までの事前予約制（ただし、急用などで事前に予約することができなかった場合、運転手が確保できれば対応は可能）、自宅から三和地域全域または商業施設（PLANT 3）まで運行（ドア TO ドア方式）
- ・運行事業者：三和地域協議会
…専任職員1人（半日勤務）と兼任3人で利用受付・配車を行う。
- ・運転者：地域のボランティア（有償）19人
- ・運行車両：運行事業者（地域協議会）1台（リース）、ボランティアの持ち込み車両17台
- ・利用者：会員登録した三和地域住民（登録料500円） 登録者数約140人
- ・運賃：片道400円、PLANT 3便は片道800円（ただし、2人以上乗車の場合は片道100円の割引）
- ・利用実績（運行回数）：コロナ禍以前の多い時は1日5～6便あったが、現在は1日1～2便の状況となっている。
- ・運転手への報酬：持ち込み車両800円、運行事業者車両500円（PLANT 3まで運行した場合は3,200円） 多い人で月に15,000円程度、平均3,000円～4,000円程度の報酬になる。
- ・自動車保険：持ち込み車両の場合はその車両の保険を適用（運転手持ち）、事故が起こった場合、利用者から慰謝料などの要求がされないよう誓約書を徴取している。
- ・運行収支：（収入）登録料・運賃収入、市からの補助金約200万円

(支出) 運転手の報酬、専任職員の人件費 120 万円、運行事業者の車両のリース料・ガソリン代など

◆ 「みわひまわりライド」を運行していく上での課題

- ・協議会が車両 1 台をリースで入れたが、月 3 万円のリース料の負担が大きく、これを賄うだけの利用がない。これから地域公共交通を始める場合には、はじめから車を確保するのではなく、個人に車を出してもらい、本当に必要になった場合に車を確保することが必要。
- ・重大事故が起これば裁判になった場合に協議会が対応できるか問題がある。保険に加入するなど、市にバックアップしてもらおう仕組みの構築が必要。

◆ 成果

持続可能な地域公共交通としていくため、以下の取組（要件）が必要なことを理解することができた。

- ・はじめの運賃設定は高くした方が望ましい。（低運賃だと、かなりの利用がないと、収支バランスが悪くなる）
- ・運行の予約受付などを個人の携帯電話で行うのは、一個人の負担が大きすぎる。固定的な事務所とスタッフを確保している協議会など確固とした事業主体が必要。
- ・地域住民の理解と協力がなければ事業は継続できない。利用者と運転手のお互いの信頼関係が必要。とりわけ運転手は地域で信頼される人の確保が必要。その趣旨から、三和地域協議会では協議会のスタッフの同級生など、一本釣りでも確保してきた。また、運転手にやりがいを持ってもらうことも重要。
- ・事業継続のためには一定の財源が必要であり、そのためには行政の支援が不可欠。赤字分は行政が補てんする仕組みがないと継続は困難。